

京都大学大学院教育学研究科
教育実践コラボレーション・センターE.FORUM
学力評価スペシャリスト研修
第1回 フォローアップ研修
オリエンテーション

2017年10月21日
京都大学 西岡加名恵

1. 本研修の目的

- この研修は、パフォーマンス評価やルーブリック、ポートフォリオ評価法などに関する確に理解し、教師や学校の指導にあたることができるような「学力評価スペシャリスト」を育成することを目的にしています。あわせて、研修の成果を追跡調査することにより、研修プログラムの改善につなげることをめざしています。

※本研修は、文部科学省「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」の委託による事業「学力評価スペシャリスト研修プログラムの開発・施行・改善」の一環として行います。

2. 講師・スタッフ

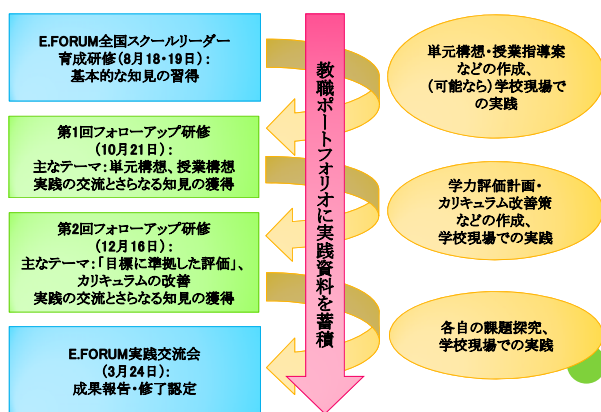
(所属は京都大学大学院教育学研究科/教育学部)

- 教授 西岡加名恵
- 准教授 石井英真
- 特任教授 北原琢也
- 特任教授 盛永俊弘
- 特任教授 田中容子
- 研究員 黒田真由美
- 大学院生 若松大輔(修士1回生)
- 大学院生 澁谷輝生(修士1回生)
- 学部生 鎌田祥輝(4回生)
- E.FORUM事務補佐 田坂繭子

3. 日程概要

- 8月18・19日(金・土)
全国スクールリーダー育成研修
- 10月21日(土) 13:30-16:30
第1回フォローアップ研修
- 12月16日(土) 13:30-16:30
第2回フォローアップ研修
- 3月24日(土)
実践交流会

4. 研修内容(概要)

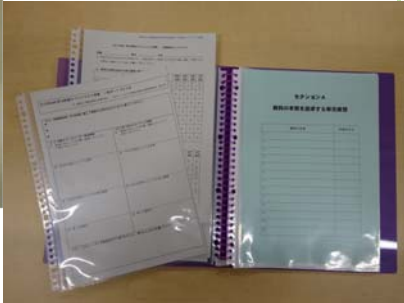


<本日の予定>

- 13:30-14:15 趣旨説明、評価方法等に関する解説(西岡加名恵・石井英真)
- 14:15-15:00 参加者の自己紹介、グループ分け(お一人1分で自己紹介をお願いします。)
- 15:00-16:20 実践資料の検討会(3つのグループに分かれて、実践資料の検討を行います。本日は、「本質的な問い」「永続的理解」とパフォーマンス課題のシナリオの検討が中心になる予定です。時間の余裕があれば、指導案も合わせてご検討ください。)
- 16:20-16:30 まとめ(研修に対するコメントなど)

※次回、扱ってほしい内容など、ご意見・ご要望・ご質問を、付箋紙に書いてお寄せください。

5. 教職ポートフォリオ



(1) ポートフォリオ評価法とは・・・

- ポートフォリオ：学習者（児童・生徒や学生）の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの
- ポートフォリオ評価法：ポートフォリオ作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

(2) 所有権 (OWNERSHIP) :

収める作品や評価基準の決定権

学習者 ← 基準創出型ポートフォリオ → 教育者

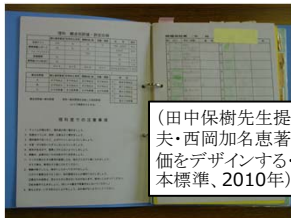
最良作品集
ポートフォリオ

基準創出型
ポートフォリオ

基準準拠型
ポートフォリオ

(3) 日本での実践例

（宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年）



（田中保樹先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする・理科』日本標準、2010年）

◎京大・教育学部の特色入試 →第1次選考：書類選考 学びの報告書（H28年度）

- 【1】 中学時代から現在までに取り組んだ「学び」の活動（各教科での学習や総合的な学習の時間、読書、課外活動、学校行事での活動、ボランティア活動等）のうち、主なものを時間の経過に沿って記述してください。
- （1）「時期」欄には活動を行った時期（西暦で〇年〇月、〇年〇月～〇年〇月など）を記入してください。
- （2）「活動内容」欄には活動の内容と簡単な説明を書いてください。その際、その成果を示す資料を添付してください。
- （3）「資料番号」欄には対応する資料の番号を記入してください。
- ※転写した資料や各種の複製については、上記とは分けて【2】の欄に記述してください。

| 時期 | 活動内容 | 資料番号 |
|----|------|------|
| | | |
| | | |
| | | |



（京都大学特色入試：<http://www.nyusi.gakusei.kyoto-u.ac.jp/tokushoku/03educ/>）

◎京都大学の教職課程ポートフォリオ



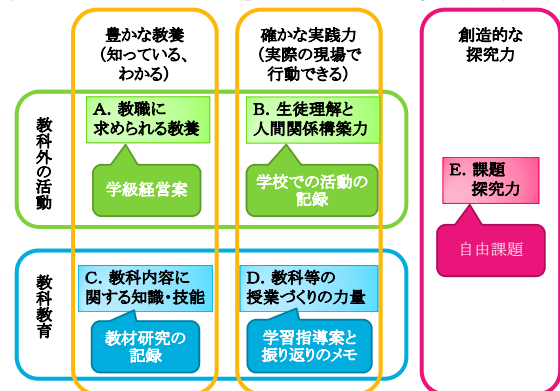
（西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年）

＜必須の成果資料＞

- 学級経営案
- 学校での活動の記録
- 教材研究の記録
- 学習指導案と振り返りメモ
- 自由課題

（<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/13-9302001>）

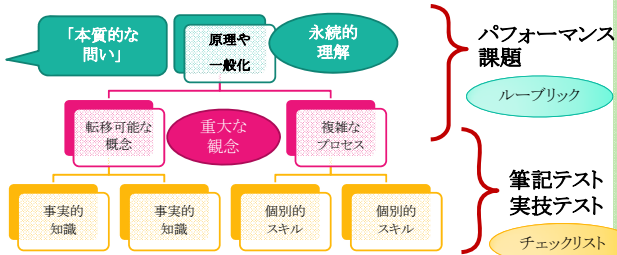
※京都大学の教職課程ポートフォリオ 「教師に求められる力量」の5つの柱と必須の成果資料



（西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック』ミネルヴァ書房、2013年参照）

(4) 設計上のポイント

◎「知の構造」と評価方法・評価基準



(西岡加名恵『教科と総合学習のキャリアデザイン——パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化、2016年、p.82. McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65の図や, Erickson, H.L., *Stirring the Head, Heart, and Soul*, 3rd Ed. Corwin Press, 2008, p.31の図をもとに作成。G・ウィギンズ/J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらしキャリアデザイン——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年も参照)

◎長期的な見通し

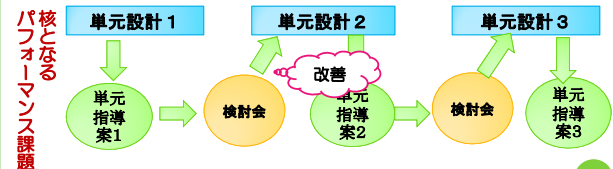
「本質的な問い」の入れ子構造

単元設計：どのように単元設計すればよいのか？

単元1は、どのように設計すればよいのか？

単元2は、どのように設計すればよいのか？

単元3は、どのように設計すればよいのか？



一貫した評価基準 (チェックリスト、長期的ループリッック)

(5) 教職ポートフォリオの「5つの柱」

A. 教科の本質を追求する単元構想

- 単元指導案 → 単元設計テンプレート(参考書式)
- 「本質的な問い」「永続的理解」とパフォーマンス課題
- パフォーマンス課題に対して生み出された作品例 など

B. 学習者主体の授業構想

- 本時の指導案
- 授業の記録(写真、速記録、動画など)
- 授業で用いたワークシート など

C. 「目標に準拠した評価」の実現

- 学力評価計画 など

D. カリキュラムの改善

- カリキュラム改善策
- 校内研修の資料 など

E. その他

(6) ポートフォリオ評価法に取り組む上でのポイント

- ① 学習者(受講者)と指導者で見通しを共有する。
 - なぜ、作るのか？ 意義は何か？
 - 何を残すのか？
 - いつ、どの期間で作るのか？
 - どう活用するのか？
- ② 蓄積された作品を、編集する(整理・取捨選択する)。
 - ワーキング・ポートフォリオからパーマナント・ポートフォリオへ必要な作品を移す。
 - 検討会で見せる作品を選ぶ。
 - 目次を作り、「はじめに」と「終わりに」を書く。
- ③ 定期的にポートフォリオ検討会を行う。
 - 見通しを持つ。
 - 到達点と課題、次の目標を確認する。
 - 成果を披露する。

◎ポートフォリオ検討会



1 宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照

西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年参照→



◎検討会の進め方

- ① 問いかけによって、学習者の自己評価を引き出す。
- ② 学習者の言葉に耳を傾ける(待つ)。
- ③ 達成点を確認し、いいところを褒める。
- ④ 具体例の比較を通して、目標・評価規準(基準)を直観的につかませる。
- ⑤ 次の目標について、合意する。
- ⑥ 確認された達成点と課題、目標についてメモを残す。

※一斉授業(作品批評会など)の形で行うのもOK